

## 昭和レトロ建築による商店街景観の特性 ～岐阜県柳ヶ瀬商店街を対象として～

都市空間生成研究室  
1741167 矢田 菜那子

柳ヶ瀬商店街 昭和レトロ 岐阜県  
リノベーション

### 1. 研究の目的と背景

柳ヶ瀬商店街は岐阜駅から徒歩 15 分ほどの場所に位置する商店街である。300m×300m 四方の広域型商店街でアーケードを持つ 8 つの商店会組織から構成されている。柳ヶ瀬商店街は明治 30 年から大正期にかけて商業の街として大きく発展し、戦後は空襲により焼け野原となった。その後、柳ヶ瀬商店街は岐阜を代表する繁華街として、昭和 30 年代後半から 40 年代ににぎわいと人出のピークを迎える。最盛期は小売店や飲食店が軒を連ね、映画館などの娯楽施設もあることから市内外の多くの人々が利用するほか、「柳ヶ瀬ブルース」のヒットにより全国的な知名度も得ていた。しかし、近年は郊外型大型店の出店や、常連客の高齢化により来街者の減少が続き、メディアにはシャッター商店街と言われた。

現在は世代交代などにより再生路線を推し進め、若者世代の誘客につながる新しい取組を始めるなど商店街に変化が見え始めている。そのなか、まちづくり会社が設立され大規模な再開発事業や空きビルを資産と見立てたリノベーションによるまちづくりが行われている。レトロさをまちの魅力として保存していきつつ若い世代をターゲットとして新しいコンテンツをつくるまちづくりとして進められている。しかし、商店街に景観の規制やガイドラインがないため、現状として新しい店舗も増えており、昭和から続く柳ヶ瀬商店街の空間特性を保存していくことが難しい状況である。そこで本研究では、岐阜県柳ヶ瀬商店街を対象として昭和レトロ建築の店舗景観の特性を明らかにして、昭和レトロ建築による商店街景観の保全に寄与する知見を得ることを目的とする。

### 2. 研究の方法

本研究では、柳ヶ瀬商店街における昭和レトロ建築の実態と特徴を明らかにすること、リノベーション建築と昭和レトロ建築の比較考察をするために以下を調査した。

- ① 柳ヶ瀬商店街の実態調査
- ② カード分類調査による昭和レトロ建築の分析

### 3. 柳ヶ瀬商店街の実態調査

#### 3-1. 調査対象地の選定

本研究では柳ヶ瀬商店街のなかでも店舗数が多く、月に一回開催される路上マーケットイベントの対象地である 4 つの通りを調査対象地として選定している。

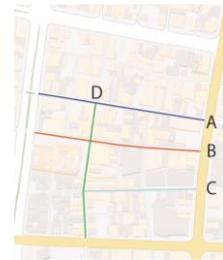


図 1. 対象地の地図

#### 3-2. 業種・店舗数の調査

対象地の 1 階に位置する店舗の業種とその店舗数を調査し、表 1 に示した。

表 1. 通りごとの業種と店舗数

	衣類	食料品	家具	日用品	総合	美容	事務所	娯楽	飲食店	病院	不明	合計
A	11	1	1	2	2	1	1	10	7		8	44
B	8	4	1	7	1		1	1	5	1	4	33
C	9	1		5		1			1		1	18
D	15	2		4	2				9			32
合計	43	8	2	18	5	2	2	11	22	1	13	125

### 4. 店舗の分析調査

#### 4-1. 分析の方法

各店舗の昭和レトロを連想させる要素がなにかを明らかにする目的として、カード分類調査による分析を行う。カード分類調査では、対象地の全店舗の写真を全 4 回の各テーマに沿って分類する。

#### 4-2. 店舗外観全体の分類

1 回目は店舗の外観全体を見て昭和レトロかどうか主観的に 3 段階に分類した。この結果、外観で昭和レトロと分類した店舗は 125 軒のうち 32 軒で、うち 4 軒はリノベ

ションした店舗であること、C は比較的昭和レトロな店舗の割合が大きいこと、通りによって建築の特徴が表れているわけではないことが分かった。

#### 4-3. 看板の分類

2 回目は看板に着目して昭和レトロかどうか主観的に 3 段階に分類した。

この結果、文字色に金色が使われていること、装飾が施された突き出し看板など看板自体の形やデザインに特徴のあるもの、店名の他に「靴の小川屋」といった販売する商品や何の店であるかが分かりやすく表示されていることの 3 つの特徴があることがわかった。



図 2. 昭和レトロに分類される店舗

#### 4-4. 看板の書体の分類

3 回目は看板の書体を 5 つに分類した。

この結果から、看板を昭和レトロと感じる要因が日本語表記の独自の書体を使用していることであると考えられる。

#### 4-5. 店舗構成の分類

4 回目は店舗前で構成される要素に着目して分類した。

1 回目の調査で昭和レトロのグループに分類された 32 軒のうち、4 回目の調査では店舗前商品設置型に分類されるものが 18 軒と割合が大きいことから昭和レトロと感じられる要素に店舗前に商品を並べることが挙げられる。



図 3. 店舗前商品設置型に分類される店舗

#### 4-6. 結果

昭和レトロ建築の分類では一番多い結果となったのは「a-a-d-c」というパターンであった。リノベーション建

築の結果は、やながせ倉庫は「a-a-d-a」、「mokku mokku」は「a-a-e-c」、「ロイヤル 40」は「a-a-a-b」という結果になった。いずれも昭和レトロ建築に多い分類のパターンとは一致しない。リノベーション建築と昭和レトロ建築の違いに一貫した特徴があるわけではなく、店舗ごとの特性が昭和レトロと感じさせる要因だと考えられる。

#### 5. 結論

柳ヶ瀬商店街の昭和レトロ建築には次の特性があることがカード分類調査で明らかになった。

##### 【看板】

- ・文字色に金色が使われていること。
- ・装飾が施された突き出し看板など看板自体の形やデザインに特徴のあるもの。
- ・店名の他に「LADY'S SHOES」といった商品や何の店であるかを分かりやすく表記する。
- ・店名は日本語表記で、オリジナルの書体を使用。

##### 【店舗前の構成】

- ・店舗前に商品を陳列する。

リノベーション建築は構造躯体を保全したまま改装を通じて空間改変しているため、保持できる昭和レトロ建築の特性と新たに付与される昭和レトロの特性がある。リノベーションによって付与される昭和レトロは、昭和レトロ建築と同じ特性を持つことや直接「昭和」を感じさせる要素を持つことで昭和レトロ性を付与していると考えられる。柳ヶ瀬商店街の再生において遊休不動産を活用した若い世代に向けた新しいコンテンツを創出するとき、直接的に昭和を感じさせる要素をもつことは難しいため、昭和レトロ建築の景観を保全していくためには、これからのリノベーション建築では昭和レトロ建築の看板の特性を意識した店舗づくりが有効的である。

#### 参考文献

- 1) 岐阜市中心市街地活性化基本計画【全編】  
[https://www.city.gifu.lg.jp/secure/37606/chukatsu-zentai-henkou04\\_s.pdf](https://www.city.gifu.lg.jp/secure/37606/chukatsu-zentai-henkou04_s.pdf)
- 2) 平成 25 年度柳ヶ瀬における建物利活用及びまちづくりに関するアンケート  
<http://www.gifu-nigiwai.org/blog/wpcontent/2014/08/0f21b40b8920.pdf>
- 3) (第 1 回) 歴史ある商店街のリノベーションによる活性化(岐阜県岐阜市)  
<https://machi.smrj.go.jp/machi/public/example/180815gifu02.html>
- 4) 「ふるさと岐阜の歴史をさぐる」No23.  
<https://gifurekisi.web.fc2.com/rekisi/no23.htm>